



秋に白い花序で咲くヤブマオ、 カラムシとの違い

生態の特徴から、近縁種との見分け方、歴史的背景まで



基本情報 (Botanical Profile)

分類:

イラクサ科 カラムシ属 多年草
(Urticaceae, Boehmeria, Perennial)

学名:

Boehmeria japonica var. *longispica*

原産・分布:

日本全土 (北海道～九州)

草丈:

1～1.2m (直立し、叢生する)

生息環境:

少数株で生えることが多く、
大群生は少ない

名前の由来と古来の利用 (Etymology & Heritage)



Yabu

+



Mao

=

名前の由来: 近縁種「カラムシ（別名：マオ／苧麻）」に似ており、藪（ヤブ）に生えることから「ヤブマオ」と命名。

繊維としての歴史: 江戸時代に木綿が普及する以前は、人々の生活を支える重要な資源だった。ヤブマオ カラムシの茎から繊維を採り、布や衣服を作っていた歴史を持つ。

花期と花の特徴 (Floral Anatomy)

花期：8～10月。遠目には白い穂状だが、近づくと無数の小花が密生している。

雌花序 (Female Flowers)

- 茎の上部につき、上に向かって
真っ直ぐに伸びてよく目立つ。



雄花序 (Male Flowers)

- 茎の下部（葉腋）に位置する。

葉と茎の構造 (Leaf & Stem Architecture)



独特な鋸歯：縁のギザギザ（鋸歯）は、先端にいくほど粗く（大きく）なる。表面は光沢がなくざらざらしている。



葉の付き方：対生（たいせい）。茎に対して対になって一定間隔でつき、長さ10～15cmの卵状楕円形～卵形（基部は円形）となる。

姿は似ていても、生態は異なる。(The Identification Challenge)

秋の野山でこの2つの植物を正確に見分けるための「4つの決定的な違い」を次項で解説。

Yabumao Environment



ヤブマオ：少数の株でひっそりと生える。

Karamushi Environment



カラムシ：道端などで大群生を作る。

ヤブマオとカラムシの識別マトリックス (Diagnostic Matrix)

	ヤブマオ	カラムシ
葉の裏面	 緑色	 白色 (※決定的な違い)
葉の付き方	対生 (Opposite)	互生 (Alternate)
鋸歯 (縁のギザギザ)	先端ほど大きく粗い	全面でほぼ同じ大きさ (約20個)
花序の位置	葉の上に真っ直ぐ伸びる	葉の上には伸びず根元に留まる

近縁種との見分け方 (Extended Taxonomy)



ヤブマオ
(Standard)

表面ざらざら、先端の
鋸歯が粗い。



オニヤブマオ
(Oni-Yabumao)

葉の裏面に毛が密生しビロード
状。鋸歯の形が鈍い（丸みを
帯びる）。



メヤブマオ
(Me-Yabumao)

全体的に弱々しく、花序も細い。
葉が薄く、基部が切形（真っ直
ぐ）で、先端が3裂する。

花言葉と、秋の野山での存在感 (Symbolism & Conclusion)

花言葉・誕生花：「不明」

ヤブマオには、公式に定められた花言葉や誕生花が存在しません。しかし、華やかな園芸品種とは異なり、古くから人々の衣服を支ええ、日本の秋の野山でひっそりと、しかし力強く白い穂を揺らすその姿そのものが、この植物の最大の魅力です。

「葉の裏の色」と「葉の付き方」を確認し、秋の風景のなかでヤブマオとカラムシの素朴な違いを楽しんでみてください。

